

食卓彩菜

「この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございます。」

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のながきなどで、ご意見や感想等何なりとお寄せくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。



おちすめんせ 「わんこそば」

「ペッコ」は「ちよっと、又は小さい」、「おやすめんせ」は「お休み下さい、又は休んでいって（寄って）いって）、おやすみなさい」という意味の花巻弁です。題字は「ちよっと、ここで休んでいって〜」という意味です。

若手名物の「わんこそば」。皆さんも一度は耳にしたことはありませんか？

「わんこそば」は、お椀に入った、熱い出汁つゆをぐぐらせた一口の量の蕎麦（そば）を、満腹になるまで何杯もお代わりして食べるというものです。

花巻弁祥説と盛岡弁祥説があり、花巻説は約400年前に当時の南部家27代当主・南部利直が江戸に向かう途中、花巻城にお立ち寄りになられた際、「庶民と同じ丼で差し上げることは失礼」と、山海の幸とともに漆器のお椀に一口分の蕎麦を出したところ、お気に召され何度もお代わりをしたということから生まれた説、盛岡説は、この地域には宴会の最後に蕎麦を振舞う風習があり、一度に人数分の蕎麦を茹で上げることが出来なかったため、お椀に盛り分け、食べている間に次を茹で、伸びない美味しい

状態のお蕎麦をどんどんお代わりして頂く形になったという説です。

花巻では、毎年2月11日に「わんこそば全日本大会」が、開催されています。この大会では、選手を力士ならぬ「食士」と呼び、行司もおり、様々な工夫を凝らした大会となっております。今年60回を迎えた大会の実績を認められ日本記念日協会に2月11日は「わんこそば記念日」として登録・認定されています。

このように「わんこそば」というと競って食べるイメージが強く、大食い・早食いと思われがちですが、本来は「おもてなしの心」から生まれた郷土食です。お店によって違いはありますが、薬味もいろいろ揃えられており、お蕎麦をじっくり味わうことも出来ます。どうぞ、ご自分にあったスタイルでお楽しみください。できれば、大勢でわいわいと賑やかに楽しみながら味わっていただきたいですね。

私が子供の頃実家では、親戚が大勢集まった年末の年越し蕎麦は、「わんこそば」でしたが、実家が主催のため、私は美味しそうに競い合って食べている従兄弟たちをうらやましく見ながら、給仕役に徹して、その後普通の量の年越し蕎麦を食べさせられていました（泣）。これも思い出です（笑）。

花巻だより

おめでとう！新成人!! 平成29年度 花巻市成人式



今年は1/8（月）が成人の日でしたが、花巻の成人式は1/6（土）に行われました。弊社の従業員にはおりませんが、従業員のご家族、この記事を担当している私の長男も新成人でした。花巻の成人式は2部構成で行われ、新成人と次年度の新成人からなる実行委員が1年以上前から企画・運営します。「最高のキセキ おかげさまで20周年」とのテーマで企画された今年の記念行事では、壇上から夢や希望を叫び、思い出の場所や同級生の今昔・一文字のジグソーパズルを掲げた恩師達のお祝いの言葉（ジグソーパズルを合わせると「今までのキセキにありがとう 君たちの未来に幸あれ」というメッセージ）が映され、高校時代の応援団（バンカラ応援）が同級生に向け団旗を振りながらエールを送り、感動的なものでした。式典では、市長が祝辞で、世界に目を向けることと地域の見直しと活性化の重要性を話し「若者が明るく暮らすためにも、若い柔軟な考えで、それぞれの立場で市政にも参画してほしい」と呼びかけ、新成人代表が「震災を踏まえて、日々の生活を当たり前と思わず、感謝し、夢を持った大人になる、共に頑張ろう」、身近な大人に感謝しながら「これからは、大人として社会を担っていく」と決意を述べました。若手では、平成6年をピークに新成人が減少しています。若者たちの明るい未来が想像できるような地域づくりが必要だと感じました。そして、昨今のニュースを見て、成人式・成人の日は、良い思い出になるものであって欲しいと切に願います。